

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。【SAH統括室】【教務部】【探究部】	1 学校は生徒の主体性を尊重し、「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」を目指す取り組みに向け進めていますか。	SAHの取り組みを理解し、その実現に向けて考え、準備を進めていると考える職員が80%以上である。	SAHコア委員会、校務委員会、職員会議を連携させ職員全体で考え、準備を進める。実態把握は学校評価アンケート(職員対象)で実施する。					
	2 生徒は特色ある教育プログラム等により、高女に魅力を感じていますか。	高女が好きだと感じている生徒の割合が80%以上である。	学校生活全体を通し、生徒の主体的な活動に取り組んでいく。実態把握は学校評価アンケート(生徒対象)で実施する。					
	3 国際交流を促進し、グローバル社会に適応した国際感覚豊かな人材を育成していますか。	グローバル人材育成のためのプログラムに満足している生徒が80%以上である。	プログラムの見直しに努め、修正をしていく。活動参加者を対象としたアンケートにより実態を把握していく。					
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。【教務部】	4 生徒は対話を重視した授業に主体的に取り組んでいますか。	生徒同士の対話を中心とした授業を受けていると感じている生徒が80%以上である。 ICTを活用して生徒が発表する機会を設けていると感じている生徒が80%以上である。	授業公開週間での目標設定を通して全ての職員が対話的な授業を立案して実践できるようにする。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 授業公開週間での相互参観や教科の代表者授業を通して適切なICTの活用方法について研鑽する機会を設ける。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。					
	5 生徒による振り返りや観点別評価を重視した授業を推進していますか。	授業の振り返りにより、自己分析や学習の定着、意欲喚起につながっていると感じる生徒が80%以上である。 「指導と評価の一体化」を意識して授業を行っていると感じる職員が80%以上である。	授業公開週間での相互参観や振り返りシートの共有により「振り返り」の効果的な実施方法について全ての職員が計画して実践できるようにする。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 適切な観点別評価について試験作成や評価方法について教科内で情報を共有する。年度末の学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。					
	6 生徒自身の興味関心を追究するとともに、様々な人との対話を通じて視野を広げる探究活動を推進していますか。	興味関心を追究した独自のテーマを設定し、様々な人との対話を通じて視野を広げる探究活動を進めていると感じる生徒が80%以上である。	総合的な探究の時間において生徒の主体的・対話的な活動となる取り組みを計画し、実施していく。生徒の「総合的な探究の時間」の自己評価等を利用して実態を把握していく。					
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。【生徒指導部】【保健環境部】	7 生徒は「清楚品位」を重んじ、規範意識をもって学校生活を送っていますか。	高女の生徒は規範意識をもって学校生活を送っていると考ええる生徒、保護者、職員が80%以上である。	普段の学校生活の生活指導により生徒の規範意識を高めていく。年度末の学校評価アンケート(生徒、保護者、職員対象)で実態を把握していく。					
	8 学校は教育相談部や生徒指導部、スクールカウンセラーと連携し、組織的なきめ細かい指導に努めていますか。	学期毎に教育相談週間を設定し、かつ、いじめ悩みアンケートを年3回以上実施している。「いじめが疑われる事実」に対し教育相談部や生徒指導部、またはスクールカウンセラーとの連携が100%できている。	友だちや教師、カウンセラーなどに生徒が気軽に悩みや相談ができたり、SOSを伝えやすい人間関係の構築に配慮する。「いじめが疑われる事実」については人間関係に教育相談部や生徒指導部で情報共有を徹底し、連携して組織的に対応していく。学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。					
	9 生徒は勉学と部活動を両立し、たくましく生きる力を育成していますか。	勉学と両立し、充実した部活動に取り組んでいると感じる生徒が部活動入部者の80%以上である。	部活動と学習の両立や目標に対して生徒同士が励まし合いながら果敢に取り組める指導を行う。学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。					
	10 学校は部活動において適切な休養日を設け、心と体の健康を図っていますか。	少なくとも週1回以上の休養日が設けられていると感じる生徒が部活動入部者の80%以上である。	休養日を計画的に組み、生徒に示すとともに生徒の健康や学習活動に配慮した活動を行う。実態把握は学校評価アンケート(生徒対象)で行う。					
	11 生徒は交通マナー、ルールを遵守し、事故の未然防止に努めていますか。	自転車通学者のうちヘルメットを着用し、安全運転に努めている生徒が100%である。	生徒に交通安全への意識を高める指導を繰り返し実施する。学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。					
	12 学校は施設の点検・環境整備に努め、安全な学校環境を整備していますか。	安全点検を月1回以上行う。学校の施設は安全だと考える生徒、保護者、職員が80%以上である。	安全点検を確実に実施すると同時に危険な箇所について申し出をもらう。学校評価アンケート(生徒、保護者、職員対象)で実態を把握していく。					
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	13 学校は難関大学合格を実現するための組織的な進路サポート体制を確立できていますか。	難関大学合格に向けた組織的進路サポート体制が確立できていると感じる職員が80%以上である。 難関大学合格に向けての充実したサポートを受けていると感じる生徒が80%以上である。	3年間を見通した難関大対策計画を作成し、職員に提示していく。年度末の学校評価アンケート(職員対象)等で実態を把握する。 1、2年生を対象とし、3年間を見通した難関大向けサポートを計画、実施する。サポートを受けた生徒を対象としたアンケートにより実態を把握する。					
	14 学校は椎樹プランを体系的に位置付け、活用し、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばしていますか。	体系的に位置付けられた椎樹プランが作成されていると感じる職員が80%以上である。 椎樹プランを活用し、自らの進路実現に向けて努力していると感じる生徒が80%以上である。	時代に合った椎樹プランを作成し、職員に提示していく。年度末の学校評価アンケート(職員対象)等で実態を把握する。 進路行事の見直しにより生徒の主体的な活動を重視していく。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。					
	15 学校は総合型選抜など、新しい入試制度に対応した進路指導を充実させていますか。	総合型選抜など新しい入試制度を意識した指導を行っていると感じる職員が80%以上である。 総合型選抜など新しい入試制度を理解できている1、2年生が80%以上である。	新しい入試制度を含めた進路情報を生徒と同時に、職員へも提示していく。探究活動との連携も含め、本校の生徒への適切な対応について検討、実施していく。年度末の学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。 生徒に年間を通じた進路指導の中で情報提供をしていく。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。					
V 開かれた学校づくりに努めていますか。【教務部】【探究部】	16 学校での学びを学校内だけに閉じず、外部の教育力を積極的に活用し、社会との接点を充実させていますか。	探究活動等において公的機関、大学、研究機関、企業への訪問に満足している生徒が80%以上である。	総合的な探究の時間の活動を中心に生徒が大学、公的機関、研究機関、企業等を訪問する活動を実施していく。生徒の「総合的な探究の時間」の自己評価等を利用して実態を把握していく。					
	17 学校は学校公開、学校評議員会、学校評価等を活用し情報収集に努めていますか。	授業公開を年1回以上、学校評議員会年2回、学校評価年2回を実施している。	PTA活動を利用して授業公開を実施していく。学校評議員会は年2回実施し、地域、同窓会、大学、保護者の立場からの情報を収集していく。					
	18 学校はWebページ、学校説明会、各種通信等により情報発信に努めていますか。	中学生向けの学校説明会を年2回実施し、その参加人数が合計1,000人以上である。 Webページにより学校の様子が分かることと考える保護者が80%以上である。	生徒中心で企画する学校説明会とし、高女の魅力を伝えられるようにする。実態把握は申込数等から把握する。 Webページの更新頻度を高めて学校の最新情報を提供する。実態把握は学校評価アンケート(保護者対象)で実施していく。					

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。【情報管理部】	19 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 各種会議においてクロームブックを活用し、ペーパーレス化が進んでいると感じる職員が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブックをできるだけ多くの会議で活用していく。学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。 					
Ⅶ 充実した「カリキュラム・マネジメント」を行っていますか。【教務部】	20 教職員は将来構想委員会や教員研修等を活用し、すべての教職員で学校の教育活動を定期的に見直していますか。	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動を定期的に見直していると感じる教職員が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> SAHに向けた取組を含め、将来構想委員会からの提案を校務委員会を通して全職員に周知し、教育活動の見直しを進めてもらう。また、職員会議や校内研修を利用して全職員が教育活動を見直す場を設ける。実態把握は学校評価アンケート(職員対象)で実施する。 					
	21 教職員はスクールミッションやスクールポリシー、育てたい資質・能力、グランドデザイン等を検討作成し、それに基づいた教育活動を推進していますか。	<ul style="list-style-type: none"> スクールポリシー、グランドデザインの作成に関わり、それを意識した教育活動を考えたり、実施したりした職員が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員からのアンケート、職員会議、職員研修を通して全職員でスクールポリシーを作成し、それを意識した教育活動を展開していく。学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。 					